

【教育目標 げんきいっぱい えがおいっぱい いきいき表現する子ども】



きらきら

新潟市立沼垂幼稚園
園だより
令和4年5月31日発行

大切なものは大切だと伝えること

園長 青木博子

園庭の真ん中に、たくさんの皿やカップ、飲み物が並んでいました。年中組のAさんが、園庭の隅にある、きらきら池からカップに水を汲み何度も何度も運んで来て、小さなじょうろに移し、カップに注ぎ、飲み物を作っていたのです。



そこに、年少組のBさんがやってきて、その小さなじょうろを持ち上げ、作った飲み物の上から水をかけ始めました。うれしそうに、辺り構わず水をかけ続けます。それをAさんはじっと見つめています。私は、Bさんも遊びたいのだなと思いながら見ていました。年少組の子どものすることだから、年上のAさんは我慢するしかないなと思っていたのです。

その様子に気付いた担任がAさんに、「いやなの？」と尋ねます。うなずいたAさんに担任は「いやだったら、『やめて』って言うといいんだよ」。すると、Aさんは「返して」と言いに行きました。しかし、Bさんはやめません。困っているAさんに、担任は助言します。「膝をついて、目を見ながら『じょうろを返して』って言ったらわかるかもよ」と。

Aさんは、Bさんの目の高さまでしゃがんで膝をつき、じっと目を見て、言いました。「返してね」と。するとBさんが「うん」とうなずき、じょうろをAさんに返したのです。

それから、担任は、年少組のBさんに「返してくれてありがとう。偉かったね」と伝えていました。Bさんは、にこにこしてうなずいていました。

その後、担任から次の話を聞きました。

「あのたくさんの飲み物も、じょうろも、Aさんにとってとても大切なものなのです。何度も何度も水を汲みに行き、苦労して創り上げたものなのです。でも、相手は年下だから、Aさんはじっと辛抱して見ていました。私は、たとえ相手が年下でも、やっと創り上げたものをないがしろにされていいわけではなく、『大切なものだから返して』と言うことはとても大切だと思います。そして、年少組の子どもにとっても、返してと言われたら返すという経験が、その子にとって大切な学びになるのです」

Bさんにとって、このような経験を積み重ねることが、やがて、「してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになること」、つまり「道徳性・規範意識の芽生え」につながっていきます。Aさんにとっては、沼垂幼稚園で目指している「自分の気持ちや考えを伝える」姿につながっていくはずです。

教師は「子どもに育む力」を明確にし、ブレずに子どもと向き合うこと。それを、私は、AさんとBさんの姿と担任の姿勢から学ぶことができました。

自分の命は自分で守る

避難訓練は、沼垂幼稚園が最も大切にしている行事の一つです。5月13日に、本年度第2回目の、火事を想定した避難訓練を行いました。

この日に向けて、2日前に第1回避難訓練を実施しました。ここでは、ベルの音に慣れるとともに、ベルが鳴ったら先生のそばに集まること、放送の指示を聞くことを、担任の先生から教えてもらいました。年少組の担任は事前に、初めてベルの音を聞く子どもへ、「ベルは危ないことを教えてくれる大事な音」だと教えてから、ベルの音に慣れる訓練をしました。泣くこともなく落ち着いて取り組むことができたのは、事前の担任のきめ細やかな指導があったからです。

13日当日、私は避難場所本部である、ことりの部屋で、避難してくる子どもたちを待ちました。はじめに部屋に入ってきたのは年少組です。その姿を見て私は驚きました。誰もお話をしていません。友達に触ったり押したりすることもあります。マスクの上から手やハンカチを使って口を覆い、担任の先生を先頭にぴったりと寄り添うように入ってきました。並んで座った後も担任の先生をじっと見つめ、落ち着いて訓練に参加していました。まだ入園して間もない年少組がここまで落ちついて避難できることに、私はとても感心しました。

さて、年中組、年長組は、一言も声を発することなく真剣に避難し、全員が避難するまで待つことができました。私の話の間も含め最後まで集中して取り組む姿は、見事でした。

これからも、園では、自分の命は自分で守ることができる力を育てていきます。



今年も悠々と空に泳ぐこいのぼり

